

社団法人 日本循環器学会
2007年度第1回理事会議事録

日時 2007年(平成19年)6月29日(金) 14時30分～17時20分

場所 東京国際フォーラム ガラ棟 6F(602)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1

理事現在数：20名

出席：和泉 徹、小川 聡、小川久雄、奥村 謙、笠貫 宏、北 徹、児玉逸雄、島本和明、
高田重男、鄭 忠和、土居義典、友池仁暢、永井良三、藤原久義、堀 正二、堀江 稔、
松崎益徳、水野杏一、山口 徹、横山光宏

欠席：なし

その他出席者

監事：今泉 勉

幹事：大津欣也、川嶋成乃亮、川名正敏、白山武司、近森大志郎、西垣和彦、野原隆司、
廣 高史、藤井崇史、藤田正俊、堀内久徳、松森 昭、南野哲男

ワザバ：中澤 誠(小児循環器系代表) 村松孝夫(財団法人日本心臓財団)

事務局：加藤安雄(事務局長) 清水光則(事務局長代理)

議事

第1号議案 2006年度事業報告

第2号議案 2006年度収支決算報告

1) 2006年度収支決算報告

2) 監査報告

第3号議案 定款施行細則および諸規定の変更

1) 定款施行細則の変更

2) 評議員・正会員代表選出選挙要領の変更

3) 理事・監事選出選挙要領の制定

4) 寄付規定の制定

第4号議案 新入及び退会会員の承認

1) 新入会員承認

2) 会費未納による退会会員の承認

第5号議案 委員会報告及び検討事項

1) 国際交流委員会

2) 心肺蘇生法委員会

3) 学術委員会

4) 教育研修委員会

5) 禁煙推進委員会

6) 心臓移植委員会

7) 専門医制度委員会

8) 専門医編集委員会

9) 情報広報委員会

10) 編集委員会

- 1 1) 学術集会運営委員会
- 1 2) 健保対策委員会
- 1 3) 医療安全・医療倫理委員会
- 1 4) 財務委員会
- 1 5) 総務委員会
- 1 6) 用語委員会

第 6 号議案 委員会委員の承認

第 7 号議案 年次学術集会に関する件

- 1) 第 71 回年次学術集会報告
- 2) 第 72 回年次学術集会報告
- 3) 第 73 回年次学術集会報告

第 8 号議案 その他

- 1) 新入局職員の紹介
- 2) 理事会日程確認

・ 議事の経過及び結果

- 1) 定刻になり、山口理事長が議長となり開会した。
- 2) 藤田総務幹事から、出席者数は定款第 25 条の定数を満たし、理事会が成立していると報告があった。
- 3) 議長が、議事録署名人として第 72 回松崎会長と第 73 回堀会長を指名し、了承された。
- 4) 藤田総務幹事から、配布資料および回覧資料の確認があった。
- 5) 資料に記載の 13 名の物故会員に対して黙祷が捧げられた。
- 6) 前回理事会議事録の確認がなされた。

第 1 号議案 2006 年度事業報告

藤田総務幹事から 2006 年度事業について資料に沿って説明があり、承認された。

第 2 号議案 2006 年度収支決算報告

1) 2006 年度収支決算報告

野原財務幹事より、5 会計の決算案について、配付の「説明書」に沿って説明がなされた。

また、基金設定に関しては、「一般会計」は当初予定どおり、施設充実基金を取り崩し、記念事業基金を設定、「専門医特別会計」は専門医制度改革基金へ 9 百万円を設定、「学術集会特別会計」では学術集会運営基金へ 30 百万円を設定し、うち 20 百万円は第 71 回学術集会での A H A との J C S - I T C 契約を記念し、立ち上げにかかる費用とする。残り 10 百万円は女性医師への助成事業として、新たに賞を設けることが承認された。

また、年次学術集会及び地方学術集会に関し、会長事務局で必要となった資料にある什器備品を会長へ寄付することが承認された。

2) 監査報告

今泉監事より、2006年度の財務諸表及び収支状況について、正しく示していること、また、事業及び理事の職務執行について、真実であり、不正の行為等はない旨報告があった。

第3号議案 定款施行細則及び諸規定の変更

1) 定款施行細則の変更

議長から、第71回総会にて承認された評議員選挙方法の変更について、定款施行細則を変更する案が資料の通り提示され、承認された。

2) 評議員・正会員代表選出選挙要領の変更

議長から、評議員選挙方法の変更にともなう選挙要領の変更案について資料の通り提示され、承認された。

3) 理事・監事選出選挙要領の制定

議長から、理事及び監事の選出についてはこれまで明文化した定めがなく、今回資料のとおり新たに制定することが説明された。ポイントは下記の通り。支部別の理事数については、各地区に一人ずつ割り振った後、残りを正会員数に応じてドント方式で割り振る。外科系理事の選出、内科系理事の選出、監事の順番で選出を行う。

選挙要領案について、資料の通り承認された。

4) 寄付規定の制定

議長から、学会が企業から直接寄付を受け取るようになったことに伴い、受入等に関する規定を今回資料の通り新たに制定することが説明された。

寄付規定案について、資料の通り承認された。

第4号議案 新入及び退会会員の承認

1) 新入会員の承認

藤田総務幹事から、2007年2月1日から同年3月31日までの2006年度新入会員343名および同年4月1日から同年5月31日までの2006年度新入会員168名が資料に基づいて説明され、承認された。

2) 会費未納による退会会員の承認

藤田総務幹事から、2005年度及び2006年度の二年間にわたって会費が未納である会員307名が資料に基づいて説明され、定款の定めに基づき、これらの会員の退会が承認された。

第5号議案 委員会報告

1) 国際交流委員会

小川委員長から、以下の通り報告があった。

資料のとおり磯部委員がACCの56th Annual Convocationに出張した。

資料のとおり松森委員がWCC2008プロダム委員会及びWHF臨床心臓病理事会へ出張した。

英文役職名称について、海外学会と統一するため理事長を「President」、会長を「Congress Chairperson 年号」等資料のとおり変更する。

APSC加盟国で開催されるジョイントシンポジウムの演者として、資料のとおり福田恵一先生をインドネシアへ、小室一成先生をフィリピンへ国際交流委員会から派遣した。

JSC2008にて表彰する国際名誉会員について、次回理事会にて提案する予定としている。

JCS2008にてWHFセッションを国際交流委員会セッションとして開催する。招待演者等を今後検討する予定である。

国際留学生YIA応募者資格として、資料のとおり「申請時において会員であり、会費を完納していること」を追加する。

第17回APCC北畠顕会長から、専門医研修単位付与について要望書の提出があった。通常、国際学会は2単位となるものだが、JCSが招致し日本で開催することになったものであるため、地方会同等の5単位となるよう要望したい。国際交流委員会としてはこれを確認し、専門医制度委員会での検討を依頼する。

以上について、承認された。

2) 心肺蘇生法委員会

笠貫委員長より、横山第72回学術集会会長に対し、学術集会特別会計の一部を、学会会期中にAHAと契約が行われたJCS-ITCの立ち上げ資金とされたことについて謝辞が述べられた。続いて下記の通り報告があった。

2008年度循環器専門医認定試験からAHA ACLSプロバイダーコースを受験資格とする。移行措置の内容については専門医制度委員会の報告に譲る。

各支部長宛てに支部でのACLSプロバイダーコース開催についての基本ルール等について資料のとおり報告した。

ACLSプロバイダーコースにおいてAHAのガイドラインだけを教えるのか、日本のガイドラインの内容も含めるかについてAHAと協議中。

7月28日(土)29日(日)と8月11日(土)12日(日)にACLS役員専用コースを開催する。

心肺蘇生法委員会の組織改編について。

- 1)心肺蘇生法委員会を循環器救急医療委員会と改称する。
- 2)心肺蘇生法委員会は教育研修委員会の下部組織であったが循環器救急医療委員会は独立した委員会として活動する。
- 3)循環器救急医療委員会の下に、トレーニングを担当するJCS-ITC運営小委員会、エビデンス発信や日本のガイドラインを検討する蘇生科学小委員会、医師の過重労働も含めて救急医療体制の提言などを検討する循環器救急医療制度小委員会の3つの小委員会を設置する。

以上について、承認された。

3) 学術委員会

堀委員長から以下の点について報告があった。

重篤副作用疾患別対応マニュアル作成(「うっ血性心不全」(友池仁暢部会長)「Torsades de pointesを含む心室頻拍」(堀江稔部会長))について、最終版を厚労省に提出した。若干の変更があった場合にはフィードバックされ、最終的には本年11月頃に厚労省のホームページにアップされる予定である。

2006年循環器疾患診療実態調査(土居義典主査)について、約1,500施設からの登録があり、7月末の登録データを最終とし集計を行う。特に専門医研修および関連施設については、2007年3月理

事会で指定更新の対象とすることが承認されており、調査協力を進める。

ガイドラインの制作出版社について、2007 年度よりヨシダ印刷株式会社から大村印刷株式会社に変更し、新たに契約を結んだ。

活動中のガイドラインの協力員の追加について4班（越後班、土居班、山口徹班、尾崎班）から申請があった。

大規模臨床試験後援について、ABC 研究（北風政史先生）試験から期間延長申請があった。

財団法人日本医療機能評価機構 MINDS の意見交換会（6月23日）時で、今後、主要な論文のアブストラクトを訳して解説をする、当会ガイドラインの解説をする、ということで協力依頼があった。

当会ガイドラインが4月よりホームページで一般公開した。

以下の2002年度発足4ガイドラインについて部分改訂を行うことになった。

- ・「不整脈薬物治療に関するガイドライン」(班長：児玉逸雄先生) 100万円
- ・「循環器疾患における抗凝固・抗血小板療法に関するガイドライン」(新班長：堀正二先生) 100万円
- ・「急性および慢性心筋炎の診断・治療に関するガイドライン」(班長：和泉徹先生) 50万円
- ・「肺血栓塞症および深部静脈血栓症のガイドライン」(班長：安藤太三先生) 100万円

第71回学術集会時に行ったガイドラインのアンケート調査について、評価としては概ね好評であった。

大規模臨床試験後援について、公的な資金を得られたものを後援する。2005年6月に後援が承認されたJ-TRACEについては、当時、公的資金の規制が確立されていなかったため、公的資金が得られていない同試験については、特例で引き続き後援する。

ガイドライン作成の利益相反について、2007年度から公表するガイドラインの班長、班員、外部評価委員に利益相反の書類を記載いただく。記載内容については、厚労省が2007年度末に作成する新しいフォーマットを参考にして、今後変更していく。

日本循環器管理研究協議会からの要請で学術委員会で予防に関する部会を設置する。

以上について、承認された。

4) 教育研修委員会

北委員長より、下記の通り報告があった。

AED 検討委員会として、救命実態調査と学校での AED の設置の調査を行っている。また文部科学省に学校への AED の配備の提言を行いたい。

日本循環器管理研究協議会から第20回循環器予防セミナーの共催の依頼があり、検討の結果、共催は認めるが経済的な援助は行わないこととした。

以上について、承認された。

またライブデモンストレーション実施ガイドラインについて、島本策定ワーキンググループ長より下記のとおり報告があった。

6月13日(水)にワーキンググループの会議が行われた。この会議で1)インターベンション系の学会が行っているようなライブを日本循環器学会でも行う必要があるのか、2)外科系の2名の出席者より、外科手術のライブを日本循環器学会で行うのは好ましくないという意見があった。

その結果、PCIのライブを行う必要があるか否かについて、教育研修委員会、理事会での議論に戻して学会としての方針検討を委ねることとなった。

検討の結果、山口理事長から次の 3 点の基本方針が提案され、再度ワーキンググループでガイドラインの策定を行うこととなった。

- 1) 日本循環器学会の参加者層のほとんどは外科手術やインターベンションをやらない内科医であるので、それらの層に対して見せるライブとして位置づける。
- 2) 適応の議論も含めた典型的な事例を扱う教育的ライブとする。
- 3) ビデオやヴァーチャルライブも含めて検討する。

5) 禁煙推進委員会

藤原委員長から以下の点について報告があった。

「禁煙治療のための標準手順書」の使用方法を解説した「動画で見る禁煙治療のための標準手順書」を、配布資料のとおり学会ホームページにて販売を開始した。

第 71 回学術集会への寄付金の中に、JT (日本たばこ産業からの) からの寄付が入っていた件については、横山会長の承認のもと、既に返却した。

以上について、承認された。

また以下の点について討議の依頼があった。

第 71 回学術集会寄付については JT の子会社である鳥居薬品からも、寄付をうけているが、次回より JT だけでなく鳥居薬品からの寄付も受け取らない方針を進めたい。なお、鳥居薬品については、賛助会員でもあるので、禁煙推進委員会としては、できれば賛助会員からの辞退も依頼したい。

以上については、継続審議とされた。

6) 心臓移植委員会

藤原委員長から、下記の通り報告があった。

2007 年 5 月 31 日現在の心臓移植および心肺同時移植適応検討の状況については資料のとおりである。心臓移植関連学会協議会への外科系派遣委員について、佐野俊二先生に就任を依頼した。

埼玉医科大学の心臓移植に関わる機能が、新たな埼玉医科大学国際医療センターに移転したことにより、心臓移植実施施設としての疑義が生じており、4 月の心臓移植関連学会協議会にて審議された。新施設は改めて移植実施施設としての審査を要するとの結論になり、現在埼玉医大から申請を受けて協議会委員にて審査中である。その他の関連会議については、資料のとおりである。

現在、心臓移植適応検討の申請を郵送にて受け付けているが、より迅速に、また適応検討に必要な正確な情報を得るためにインターネットによる申請受付システムの検討を行っている。

以上について、承認された。

7) 専門医制度委員会

土居委員長から以下の点について報告があった。

6/9 に開催された ACLS 必須化のための合同委員会で、2008 年度循環器専門医受験資格から、AHA ACLS プロバイダーコースの必須化が決定した。ACLS 認定資格は 2 年の期限があるため、受験資格として認められる基準日をいつにするか検討した結果、受験年度の 4 月 1 日以降有効な認定証を提出することが決定した。決定事項の周知方法については、会告・循環器専門医誌・学会ホームページ・News letter へ掲載する。2008 年度受験対象者には、個別に郵送で通知する。なお、導入当初の 2~3 年

間の移行処置については、専門医試験筆記試験日までに ACLS 修了済であれば、受験可能とすることになった。また 2 年間の有効期限が失効している場合でも受験資格として認めることが望ましいため、心肺蘇生法委員会と協議することになった。

「専門医の基本的枠組み」について、これまで「Subspecialty」として分類されていた循環器専門医・消化器病専門医・呼吸器専門医等は、「基本診療領域専門医 2」に該当する。また、「特定診療領域専門医」「横断的診療領域専門医」は、「基本診療領域専門医 1 あるいは 2」取得後に、特定診療領域あるいは横断的診療領域の専門医として取得するものとする。また医道審議会医道分科会診療科名標榜部会から、標榜診療科標記の見直し案の提示があったが、「内科、外科系においては、現状を踏まえたものではなく納得しがたい」ため、専門医認定制機構としての意見を提出する予定である。

2007 年 4 月 1 日更新の循環器専門医認定更新状況は資料の通りであり、全専門医数は 10,354 名である。

2007 年度指定および指定更新状況については資料のとおりである。

研修カリキュラムの第 3 回改訂版が完成した。今回の改訂は 8 年ぶりとなる

会費未納により会員資格を喪失したため、循環器専門医資格も喪失した 3 名について専門医資格の復活が決定された。

以上について、承認された。

8) 専門医編集委員会

鄭委員長から以下の点について報告があった。

2007 年度 9 月発行の循環器専門医誌 15 巻 2 号の目次を確認した。

2008 年度 3 月発行の循環器専門医誌 16 巻 1 号の目次を検討・決定した。

以上について、承認された。

9) 情報広報委員会

山口理事長から以下の点について報告があった。

会員向けニュースメール「JCS Newsletter」が順調に配信されており、メールアドレスの登録も少しずつ進んでいるが、さらに多くの会員のメールアドレス登録を推進するため、郵便その他の手段で呼びかけを行っていく。

「JCS Newsletter」に、新聞の切り抜きの記事などのような、社会一般で注目されている循環器系の医療・医学関連を記事化したものを載せられるように検討したい。

学会ホームページで、一般から使いやすくするために、専門医マップの表示を工夫してわかりやすくする。また、会員との双方向コミュニケーションを図れるように、投書欄のようなものを設けるなどして会員の声を汲み上げるしくみを作る。

以上について、承認された。

10) 編集委員会

松崎委員長から、以下の点について報告があった。

2005 年の Impact Factor は、「2.135」であった。

更なる上昇を目指して、今後、他誌に投稿の際は、Circulation Journal からの引用をお願いしたい。

2007年の投稿論文数が1100編と予想される。内、半数が海外からの投稿である。

Associate Editorの担当論文数が増加したことを受け2名を追加することとなり、井上博先生と青沼和隆先生に就任を依頼することとなった。

児玉逸雄先生の査読・監修の元、不整脈に関するReview ArticleをまとめたSupplement Aが6月25日に発刊された。

2冊目は、堀正二先生の手で予定されている。

長年安い料金に抑えられてきた、掲載料と加-料金を値上げすることとなった。

掲載料：2頁まで：無料、3～5頁：¥10,000、6～8頁：¥20,000、9頁～：¥50,000

加-料金：¥20,000/頁

以上について、承認された。

1 1) 学術集会運営委員会

児玉委員長から以下の点について報告があった。

第71回学術集会継続事業の内、「女性研究者奨励賞」が設定された。応募資格は申請時において日本循環器学会女性会員であること、選考委員会を設けて毎年1名の受賞者、賞金50万円とする。

学術集会アンケート(5月14日～23日にE-mailアドレスを登録している会員2,000名を無作為に抽出して319名の回答を得た)集計について、ライブデモンストレーションや公用語についてが大体の意見であった。

製薬メーカーからのネームカード事前購入について、申請のあったメーカーの社員配布用の使用を明記することを条件に、購入を受け入れる。

以上について、承認された。

1 2) 健保対策委員会

和泉委員長から以下の点について報告があった。

平成18年度の診療報酬改定に関する検証作業は、それぞれの分野で行われている。特に施設認定等が問題になっている。

平成20年度に予定されている診療報酬改定について、新収載7項目、既収載10項目を内保連を通じて提出した。

独自の要望書について、ケイ酸ソーダカプセルについてはメーカーの協力も得られ、肺高血圧症への適応拡大が進行中である。

デバイス管理機構については、腹部大動脈瘤ステントに関して、厚労省の意向も受けて学会主導での管理機構が動き始めている。ただし今後、各学会が協力して進めるようにする必要があると思われる。

また和泉委員長から、下記について審議依頼があった。

JCS実施のDPC調査について、2004～2006年度に3ヵ年実施したが、その実績を受け、2007年度以降も継続したい。データ収集や解析の項目・方法などを今後委員会で検討する。

以上について、承認された。

1 3) 医療安全・医療倫理委員会

島本委員長から以下の点について報告があった。

第 72 回学術集会時 医療安全・医療倫理に関する講演会について、講演会参加者に専門医資格更新に必要な単位の付与を専門医制度委員会に要請した。

また、講演内容について、基調講演に加えパネルディスカッションを企画する。

診療行為に関連した死亡事故調査モデル事業について、厚生労働省試案「診療行為に関連した死亡の死因究明等のあり方に関する課題と検討の方向性に対する意見」について、意見書に賛同することとなり提出がなされた。

以上について承認された。

14) 財務委員会

横山委員長より以下の点について報告があった。

基金管理細則に基づき、基金設定されている各賞の現在残高が報告された。

理事会での収支中間報告に関する議事について、資料にある「提案」通り、今後は、理事会の財務委員会報告の中で報告する。

配布にある専門医制度委員会からの要望を受け、専門医試験にかかる次の(1)～(5)の実務担当者へ、以下の謝礼をお支払いする。

- (1) 試験監督 3 万円
- (2) 専門医実務委員の試験問題選定に関し、2 日間で 6 万円
- (3) 試験委員 3 万円
- (4) 試験問題作成委員 2 万円
- (5) 診療実績評価委員 2 万円

支部が将来行う公益目的事業についての基金を設定するにあたり、必要である「支部事業基金規程」を資料の通り作成した。

機関誌等について、資料にある現行通りの価格で有料販売する。

新規賛助会員として、日本ガイダント(医療機器メーカー)の入会申込があった。

以上、 について確認され、 ~ は、承認された。

15) 総務委員会

山口委員長から以下の点について報告があった。

評議員選挙方法の変更にかかる規程変更について審議した。

厚労省より ICD-11 への協力依頼が届いているが、専門性が高い内容であるため、永井理事に依頼し、東大の興相貴英先生をご推薦いただいた。同先生を、JCS からの委員として厚労省に推薦する。

JCS の中長期展望について意見交換を行った。そのうち、メディカルへの対応について検討する委員会を設置する予定である。

医師の過剰労働問題に関しては、救急部門が一番問題となるため、新設の循環器救急医療委員会で検討いただくことになった。

標榜診療科名の改定について、内科系・外科系の学会で要望書を提出した。循環器科は既に 50 年以上使用されている名称であり、また内科・外科の区別がつかない患者にとってのゲートキーパーの役目もあると思われる。この問題についてはまだ流動的であり、今後も情報収集と要望の提出を行っていく。

検査と手術に関する業者の立合いについては、来年 4 月から原則禁止となる。循環器領域では影響

を受ける部門が多いため、各学会でも対応する動きがある。JCSにおいても、国内渉外部会で今後望ましい形を検討することとした。

以上について、承認された。

16) 用語委員会

山口巖委員長に代わり、議長から以下の点について報告があった。

「循環器学用語集第三版」については発行が遅れているが、現在最終段階にあり、本年11月に配布できる予定である。

発行時期の変更に伴い、会員数増などのため、資料の通り若干の予算変動がある。

以上について、承認された。

第6号議案 委員会委員の承認

議長から、資料の通り委員会委員に変更があった旨報告があり、承認された。

第7号議案 年次学術集会に関する件

1) 第71回年次学術集会報告

第71回学術集会横山会長より下記の通り報告があった。

会期を無事運営することができた謝辞が述べられた。

学術集会参加者について、総参加者16,497名(内、有料参加者12,083名)であった。

一般演題では応募数3,678題、採択演題数2,116題、採択率が約60%であり、日本語と英語の発表はほぼ50%ずつであった。海外からの一般演題応募数164演題、採択演題数85演題であった。

外国からの招聘者約100名、コメディカルセッションでは、一般演題262演題の発表があった。

参加証自動発券機を始めて導入し、口述発表データの事前登録を行った。

継続事業として、1つは心肺蘇生法委員会のJCS-ITCの立ち上げにかかる資金に、もう1つは女性医師への支援として「女性研究者奨励賞」の設置に充てる。

2) 第72回年次学術集会報告

第72回学術集会松崎会長より下記の報告があった。

2008年3月28日~30日の開催、ACC2008と2日オーバーラップしたことにより、アメリカからの招待者に辞退がある。

資料のとおり、美甘レクチャー、真下記念講演、特別講演の演者については内諾いただいている。

Circulation JournalのInternational Advisory Boardをメインに招待した。

プレナリーセッション7セッション、シンポジウム20セッション開催する。ジョイントシンポジウムは例年どおり、ラウンドテーブルディスカッション、トピックス、コントラバーシー、ミート・ザ・エキスパート、モーニングレクチャーを開催する。

会長企画として、韓国と日本とのジョイントミーティングを開催する。再生医療、心不全、心エコーの3セッションを取り上げ企画している。

公用語についても英語と日本語のセッションを半々で組む予定である。

3) 第73回年次学術集会報告

第73回学術集会堀会長より下記の報告があった。

2009年3月20日～22日、大阪国際会議場、リーガロイヤルホテルで開催する。

メインテーマやコンセプトについては、次回理事会で発表する。

APCC2009(5月21日～23日 会長：北畠顕先生)とは切り離して行う。

第8号議案 その他

1) 新入局職員の紹介

藤田総務幹事から、5月7日付けで事務局職員を一名新規採用したことが報告され、承認された。その後、藤田総務幹事から富山美亜氏が紹介された。

2) 理事会日程確認

議長から、本年度の理事会日程について資料の通り報告された。

以上をもって本日の議事を終了し、議長から長時間の議事についての謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人、これに署名押印する。

2007年6月29日

社団法人 日本循環器学会 2007年度第1回理事会

議 長

議事録署名人

同

(以下余白)